タウンニュース®

上溝南高校創立50周年特別号

2025年（令和7年）
6月5日(木)号

■発　行：株式会社タウンニュース社　相模原支社　https://www.townnews.co.jp
■編集室：〒252-0239 相模原市中央区中央2-6-4　TEL：042-753-8500（代）FAX：042-769-7001

発行責任者：宇山 知成
支 社 長：齊藤 明
編 集 長：齊藤 明

祝創立50周年
無限のチャレンジへ！
上溝南高等学校
創立50周年記念誌はこちらの二次元コード（50周年特設ページ）から見ることができます
KAMINAN 50TH Anniversary

■このタウンニュースは上溝南高校の創立50周年を記念し発行するもので、相模原市内全域におよそ6万部を新聞折込いたします。外面で50周年事業の取り組みや今の学校の様子、中面で卒業生の思い出話などを紹介しています。

上溝南高校が創立50周年

あす式典 記念に映画、歌

制作物 卒業生が担当

「上南（かみなん）」の愛称で親しまれる県立上溝南高等学校（中央区上溝2669）が今年度、創立50周年を迎えた。それに伴い、周年事業として短編映画や記念ソングをつくった＝関連記事あり。あす6日㈮に南区で開催される式典でそれぞれ披露する。担当教諭は「縁があって色々な制作物が生まれている。上南プランドを広げていきたい」と期待する。

上溝南高校創立50周年プロジェクトの一環で製作された短編映画「カミナンって、呼ぶな。」のポスター。主演は俳優の小林桃子さん。あす6日、記念式典で上映される。

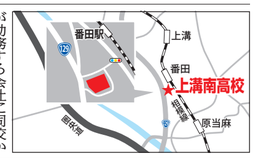
1976年開校

上溝南高校は1976（昭和51）年4月に開校。この4月に50期生が入学した。これまで1万6000人余りの卒業生を輩出している。

その「卒業生」が今回、周年事業に大きく関わっている。短編映画の監督を務めた飯塚俊光さん（21期生）、学校のイメージアップを図り、「クリエイティブ」（創造的な制作物）を担当する西田真一さん（12期生）と亀岡春菜さん（31期生）だ。

きっかけは2018年、ある一本の電話だった。西田さんと亀岡さんが勤務する会社に同校から「県立高校なのですが、学校案内など作っていただけるものでしょうか？」という問い合わせが来たのだ。

電話の主は、当時の島宏美校長。学校案内のイメージアップを図り、「上南の魅力を発信したい」と考えていた程島校長は通勤途中の駅で見かけたパンフレットの優れたデザイン性に目を引かれたそう。そこで似たような感じで同校の学校案内を刷新することはできないかと打診をしたのだった。



母校からに驚き

案件は社内で共有された。ハッとしたのが西田さんと亀岡さん。まさか母校からの依頼が舞い込んでくるとは―「ぜひ」と2人は手を挙げた。

2人とも地域のブランディングに関心があり、特に西田さんはそれまでも小田急線沿いにある企業や行政のクリエイティブを担当していた。亀岡さんは現在も「市内在住」と卒業してからも相模原には馴染みがあるなか、地域創生ビジネスにかかわる部署に在籍している。

「シンプルな中に個性を加え独自のデザインを開発。他校に負けない上南らしさを追求する」。そのようなコンセプトのもと、18年度、学校案内は新しくなった。「案内の表紙をポスターにして市内の中学校に貼ってもらっています。とても評判がいいようで、確実に上南プランドの向上につながっています」と担当した柳谷孝一総括教諭は話す。

魅力アップを

今回の50周年の記念事業企画にも西田さん、亀岡さんの会社は積極的に応募し、他社と競合する業者選定を経て請け負うことになった。短編映画の製作は西田さんがかつて一緒に仕事をし、卒業生であると認識のあった飯塚さんに声をかけた。

「5年ほど前のことですが、会ったとき同じにおいがしたんです（笑）。こうして一緒に作ることができて光栄です」（西田さん）

卒業生が業界で活躍し、恩返しのように母校の事業に貢献する。河合豊校長は「学校案内やポスターで上南の魅力を新しい視点で発信できていると思う。これからも彼らのように社会ではばたく生徒たちを育んでいけたら」と話している。

記念式典は相模女子大学グリーンホール（南区相模大野）で開催される。短編映画「カミナンって、呼ぶな。」が上映され、全校生徒で記念ソング「50！50！」を合唱する。※映画の一般公開は未定

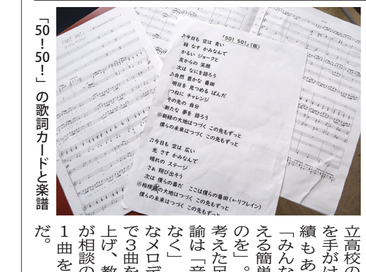
西田さん、亀岡さんが手掛けた学校案内

記念ソング制作 合唱で祝おう！

「生徒みんなの合唱で祝おう」。生徒会は50周年という大きな節目にあたり今年初め、歌声で心をひとつにする企画を考えた。

歌詞に用いるフレーズを校内で募集。集まったものを教員らと紡ぎ、歌詞に仕上げた。終業式の日、それを受け取ったのは音楽担当の足立誠教諭＝下写真。足立教諭は作曲が専門で、これまで県立高校の校歌を手がけた実績もある。

「みんなで歌える簡単なものを」。そう考えた足立教諭は「音数少なく」「素直なメロディ」で3曲を作り上げ、教員らが相談の末、1曲を選んだ。



♪今日も空は青い　緑なすかみなんで！。合唱部と吹奏楽部が歌い、上溝南高校50周年記念ソング「50！50！」のデモCDが作られた。ソプラノ、アルト、男声の3部合唱となっており、式典にお披露目される現在、全校生徒が練習をしている。「こういった大きな周年の機会はなかなかないもの。思い出に残れば」。ちなみに歌詞には「かみなん」の他、「番田」「ばんだ」など学校にちなんだフレーズも登場する他、足立教諭が後奏に校歌のフレーズを引用するなど、遊び心も光っている。

祝 上溝南高校創立50周年
広がる福祉の輪――
相模福祉村は1973年、田名に障がい者の居場所づくりを目的とした施設「たんぽぽの家」を開設したことから歩みを始めました。現在では、市内に80を超える施設を展開し、700人以上のスタッフが、相模原の福祉の充実に尽力しています。今後は来年2月に児童養護施設を新設。このほど建て替え工事が始まった障がい者支援施設を10月に、高齢者施設を2028年1月に竣工予定となっています。
さっぴー 相模福祉村イメージキャラクター
新設

児童養護施設「メレ・オハナ」（緑区原宿南）2026年2月竣工予定
建替

障がい者支援施設「たんぽぽの家」（中央区田名）2026年10月竣工予定
高齢者施設「柴胡苑（さいこえん）」（中央区田名）2028年1月竣工予定
社会福祉法人 相模福祉村
理事長 赤間源太郎（7期生）
☎042-761-7788 相模原市中央区田名6769番地

カミナンって、いいね。 学び、活動、行事を紹介

上南ならではの学びの取り組み、活躍がめざましいソフトテニス部（女子）と日本の伝統文化を継承する茶道部、そして「主体性」がキーワードの生徒会。学校を象徴するみなさんに話を聞きました。

下記の画像は同校学校案内より。学校案内は二次元コードから見ることができます。

ソフトテニス部（女子） 4年連続関東 2年振りインハイへ

関東3、インハイ2ペア出場

4月の大会で4年連続関東大会への出場を決めた。しかも今回は3ペアと「近年まれにみる」好成績。さらに1ペアはインターハイへの出場も決定した。2年連続で関東、インハイ初出場となる大谷鞠歌さん（3年）は「試合はとても緊張した。練習の努力が報われてよかった」と振り返る。

左後ろから時計まわりで石井陽和さん（2年）、大谷鞠歌さん、櫻川未来さん（2年）、岡田侑海さん（2年）、春山理穂さん、三枝美葵さん（2年）。インハイ出場は大谷さん、櫻川さん

2023年のインターハイに出場した双子の森下芹羽さん、汐羽さんペア。今回関東に出る6人は、そんな「偉大な先輩」に憧れて入部したメンバーがほとんど。春山理穂部長（3年）によると、昨年、技術のある新入生（現2年生）が入ってきて部の雰囲気が変わった。目指すところが高くなった」と好成績を分析する。

部員の憧れというOGの森下姉妹ペア。2023年インターハイでベスト32を記録（23年8月撮影）

基礎徹底で成果

顧問を務める小山悠教諭は「足を使ってボールを打つ」などの「キツい」基礎練習を徹底させる。練習コートには「全員でインハイへ」などと大きな目標が掲げられている。「こちらは声がよく出る。活気があるのも特徴（春山さん）

テスト期間の放課後、静かな校庭の片隅で自主練習に励む部員の姿が見られた。憧れの背中を追いかけていた彼女たちが、関東の舞台で「次の一打」を放つ。※2025年5月13日取材

茶道部 「知らない」が面白い

お茶を振る舞う秋田さん

交流楽しむ

部長を務める秋田晴香さん（3年）は、中学生の時に訪れた文化祭で、先輩のお点前に憧れを持ちに入部。それまでなじみがなかった茶道の世界。最初のころはお点前や作法など、覚えるので精一杯だった」と振り返る。

思い出に残っているのは他校との「交流茶会」。同じ部活でも知らないことを目にすることが好奇心を掻き立てられるのだそう。

「伝統がある文化だからこそ、私にとってまだまだ知らないことがあり、それが面白い」と笑みを浮かべた。

今年の1年生が入部するまでは総勢4人と、部の存続が危ぶまれていた。「お茶の魅力を伝えようと新入部歓迎には力を入れました」と話す。結果的に10人の新入部員を迎えることができた。今年引退を迎える中で「安心して部を任せられます」と姿勢の表情を浮かべる。

承認される場作る

インストラクターを務める江成薫さんは、開校時の創部以来指導を行ってきた前任から引き継ぎ、今年で20年目になる。

指導する江成さん

「お茶は人と親しくなるためのツール」だと部員には教えている。お点前の技術を向上させてほしいが、「楽しさを知って日常の友達付き合いなどに生かしてもらえたら。それも茶道の成果です」と思いを語った。

指導するときに気を付けていることは「承認」と「将来への種まき」だという。生徒にとって部活動の場が「他者から認められる」環境であることを心掛けている。また、高校を卒業して茶道を離れてしまっても、学んだ作法や礼儀は将来にも役に立つほか、「またいつか」のその機会につながればと期待を込めている。

学校には週に1回訪れる。元気と礼儀の良さが上南生のいいところだという。「廊下ですれ違った時のあいさつや小さなコミュニケーションが楽しみになっています」と指導の成果を実感しているようでもあった。

会長の詫摩さん（左）と副会長の三樹さん

年生の詫摩朝陽生徒会長と三樹謙晟副会長。生徒会は現在、3年生2人、2年生5人、合計7人で活動している。

学校行事や受験生向けの学校説明会の企画運営を担っている。時には校内の問題に対して提案を行うなど自らの手により良い学校生活が送れるように生徒の先頭に立つ。取り組むその姿勢は生徒会に代々受け継がれているものという。

2人は中学校の同級生。受験生の時に訪れた説明会で、先輩が明るくあいさつする姿に憧れ進学を決めたいう。「先輩の背中を見て行動していたら主体性が身に付いた」と詫摩会長は話す。

ここがすごい上南の学び

チャレンジ応援

進路指導担当の齋総括教諭

上溝南高校卒業生の進路は4年制大学への進学が大多数を占めている。有名大学への進学実績は右肩上がりの傾向にあり、昨年は国立大学にも進学し、全体的に良い結果だったという。「授業にまじめに取り組み、宿題もしっかりこなす。日ごろの努力が結実したのでは」と進路指導担当の齋総括教諭は喜ぶ。

近年は受験方法が多様化している傾向にあり、生徒から受験方法を重視して安定した進路を提示されることも増えているという。そのような中、あえてチャレンジを応援。「上南生は突破できるだけの力を蓄えています。生徒の背中を押していきます」

授業力担当の只野教諭

教員同士授業見合う

同校は2022年度より県から「授業力向上推進重点校」の指定を受け、「上南指導メソッド」に基づいて授業改善に取り組む。

自身の教科に限らず、数学の教員が英語を見学するなど、教員同士が授業を見合う。教科を横断して意見することが、新たな気づきにつながるのだという。「（突破力の ある）生徒が前のめりになって取り組んでくれることも、教員にとって良い後押しになっている」と指導する只野善久教諭は話す。

英検担当の鈴木総括教諭

英検 モチベ向上に

上南は「英検」に力を入れており5年ほど前から学校会場に「全員受験」をひとつの取り組みとしている。担当する鈴木千春総括教諭によると、それまで別の試験を取り入れていたが「休日実施」が大きな課題だった。同校は部活動が活発で、多くの生徒が土曜日を入れている。一方、英検は学校を準会場として平日実施が可能。担当教諭は部活動の支障にならない意味もあり導入を決めた。「英検は合否が出るのでわかりやすい。モチベーションも上がっています」

南
同窓会主催 50周年祝賀会のご案内
上溝南高等学校 卒業生の皆様へ
上南50周年を機に盛大な祝賀会を開催いたします。久しぶりに、あの頃の仲間と再会しませんか？
開催日：2025年11月8日（土）18時00分～受付
場　所：レンブラント東京町田（町田市原町田3丁目2-9）
会　費：10,000円 当日徴収（現金のみ対応）
対　象：上溝南高校卒業生、上溝南高校教職員（現職、勤務経験のある方）
出席締切日：2025年10月8日（水）※参加者が500名に達した時点で出欠は締め切りとなります。
卒業生には「上溝南高等学校同窓会主催 50周年祝賀会のご案内」のハガキを名簿管理会社のリサーチより送付いたしました。詳細はハガキ中の二次元バーコードを読み取りWEB案内状をご覧ください。WEB案内状から参加申し込み、スポンサー申し込みができます。
上溝南高等学校同窓会長　下薗 尚人
幹事代表（6期 上溝南高校教員）　佐藤 敬子
問い合わせ 上溝南高校同窓会　042-778-4153（担当佐藤敬子）